



(左)高槻市塚原地区から望む阿武山観測所。山の緑に塔が鮮やかに浮かぶ。
(中上)阿武山観測所の歴史や現況を語る飯尾能久所長＝高槻市奈佐原の同観測所。
(中下)90年にわたって地震のメカニズムに迫ってきた阿武山観測所。
(右)地下展示室にある地震計のひとつ「佐々式大震計(たいしんけい)」。1934年に2代目所長が開発し、97年まで使用された。

SOCIAL 地震追って90年 —高槻・京大阿武山観測所— 上

山の緑に薄いクリーム色の塔が映える。高槻、茨木市境に位置する阿武山山頂(281m)南の尾根に立つ、京都大学防災研究所附属地震予知研究センターの阿武山観測所(高槻市奈佐原)だ。1930年の設立以来、90年もの間、日本の地震研究の重要な一翼を担ってきた。その歴史や研究成果などについて、3回にわたって紹介する。

麓からよく目立つ建物は、2階建ての西館と3階建ての本館からなり、面積は延べ約2,000㎡ある。塔の高さは30m。実はこの塔、所長の飯尾能久(よしひさ)・防災研教授＝地震学＝によると、

国家の事業の偉容を示すため、現在のJR京都線から見えるようにと設計された。「研究には不要。むしろ邪魔」と飯尾所長は苦笑いする。

それでも観測所は時々の最新の地震計を導入、1943年の鳥取地震や48年の福井地震などの観測で地震現象の解明に大きく貢献した。防災研が岐阜県以西に展開する8観測所の中で最古の施設だが、現在も防災研の小型の地震観測システムの中核として、南海トラフ巨大地震や内陸地震の予知のためのデータを蓄積している。さらに敷地内で34年、藤原鎌足の墓とされる国の史跡・阿武山古墳が発見されたことでも知られる。

一方で、この大きな特徴は外に開かれた施設であることだ。2014年の耐震改修までほぼ当初のままだった建物に加え、歴史上重要な地震計がいくつも残り、市民に地震を学んで防災を考えてもらう科学博物館としての役割も果たしている。地下に展示室があり、かつて使われた機器が並ぶ。2月を最後にコロナ禍で中止しているが、年に60回ほどの見学会を催し、約2,000人が市民ボランティアによる解説に聴き入ってきたという。

また、昭和初期の雰囲気があるまま残っていた建物は、テレビドラマや映画のロケでも使われた。11年公開の映画「プリンスとトヨミ」の撮影もあり、玄関

ホールにはいまでも出演の綾瀬はるかさんが座ったというパイプ椅子、「アヤセハルカイス」なるものが置かれている。

1980年ごろには15、6人が働いていた施設も、設備や人員が京都府宇治市の防災研本体に移り、現在常勤は2人だけだ。広い館内、やや寂しい感じは否めないが、飯尾所長は「何とか11月には見学会を再開し、また多くの人に訪れてもらいたい」と話す。

〈次号では観測所の近年の研究活動を紹介します〉

SELECT



1955年 神戸市生まれ。1980年「青」に入会。波多野爽波に師事。2000年「ゆう」入会。田中裕明に師事。編集担当。2010年俳誌「秋草」を創刊し主宰する。毎月発行。句集に『書信』『讀本』『木簡』がある。2018年句集『木簡』で読売文学賞受賞。日本文藝家協会会員。

選者 山口 昭男
やまくち あきお

【俳句の応募方法】
氏名・住所・年齢・明記のうえ、ハガキ、封書、FAX、下記の応募フォームのいずれかから応募ください。

【宛先】
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘1-13-23
株式会社シティライフNEW 俳句係まで
FAX 06-6368-3505

【応募フォーム】
<https://pro.form-mailer.jp/fms/f413b102177160>



※締め切りは毎月25日必着 ※いずれも一人5句まで
※掲載は次々号となります
※佳作は掲載をもって発表とさせていただきます。
※お名前と作品を掲載します。

「つばやき評」
このコロナ禍の中でも淡々と俳句を詠み続けられているというのは、頭が下がることです。夏の暑さも和らいでくることでしょう。ぜひ、自然の中に身を置いていただいて、思う存分秋を味わってください。そして秋の詩を。

「佳作」
枕辺に開花の記事や今朝の秋
廃校の尊徳像に蝉の殻
小銭出す度に鈴鳴る浴衣の娘
夕焼空何度も子らのまた明日
饅頭の小さき歯型や地藏盆

箕面市 大石 典子	茨木市 山下美穂子	吹田市 辻井 康祐	高槻市 宮本 正章	茨木市 河本 要
-----------	-----------	-----------	-----------	----------

「入選」
道聞けば皇帝タリアを目印と
高々と咲いた皇帝タリアが目印です。これで迷わなく歩けるでしょう。
鳴き止めて虫の話になりにけり
茨木市 河本 要
鶏頭の鶏冠の先に葉が止まり
高槻市 竹下カズエ
見たままを俳句にしました。鶏頭だからよいのです。一枚の葉が見えます。
西宮市 井上 未紅
潮騒に溶けるがごとく屋敷して
西宮市 井上 未紅
熟睡を溶けるがごとくと表しました。潮騒が子守唄のように聞こえてきます。
摂津市 尾浴 芳久
待宵や自転車一つあぜ道に
きつと明日の十五夜も畦道を自転車来て、名月を愛でているのでしょう。

俳句 / HAIKU
8月25日締切りでご投句いただいた中から、山口昭男先生に入選作品を選んでいただきました。

「優秀賞」
このひらを抱ふかたち原爆忌
箕面市 高橋 真美

FM COCOLO × CITYLIFE / 音楽のCOCOLO Vol.16

FM COCOLOの人気DJが季節やテーマに合わせた音楽を紹介。

radiko なら、FM COCOLOの「25/10 the Encounter」と言うキャッチフレーズで出会いの素晴らしさを再確認するキャンペーンを展開中

フランスの文化に触れて出会った
フェメールアーティストのアルバム



ALBUM
LES FAILLES CACHÉES
—
ARTIST
Pomme

フランス語学習を再開し、この秋で1年。先生や仲間、良い出会いに恵まれる中、フランスの音楽との出会いもありました。りんごを意味するPomme(ポム)という名の女性シンガーソングライターです。フォーク、カントリーの要素を感じるアコースティックサウンドに、ハスキーな蜂蜜ボイスと称される歌声、オートハープ(竖琴)を奏で歌う姿も心に残ります。私はある映像で彼女を知りました。歌っていたのは、映画『千と千尋の神隠し』の主題歌「いつも何度でも」。日本語の響きを丁寧に歌い上げているのを聴き、嬉しくなりました。スワタリなどジブリのキャラ刺繍が入ったズボン履いて登場しているところも実にキュート。2018年に日本を訪れた後、フランスに帰国した彼女は日本語学習をしているとのこと。そして今年、彼女はフランスのグラミー賞と呼ばれるLes Victoires de la Musiqueにて新人アルバム賞に輝きました。繊細な内面をうつしとった美しい作品です。

Pomme(ポム) / 1996年リヨン生まれ。6歳で音楽理論を学び、以後合唱団で歌い、チェロを学ぶ。19歳から本格的に音楽活動を開始、Pomme名義でミニアルバム「En Cavale」をリリース。オリジナル・アルバムは2017年の「à peu près」、2019年の「LES FAILLES」にボーナストラックを追加今年リリースした「LES FAILLES CACHÉES」の3作。1970年代のフォークとポップの影響を強く受けた音楽スタイルは、フランスの新世代アーティストとして注目されている。

SELECT DJ



尾上 さとこ
SATOKO ONOE

3月16日生まれ。大学在学中はキャンパスDJとして活動。卒業後、日本語教師を経験し再びDJの道へ。FM802で活躍後、出産を経て2017年4月よりFM COCOLO「FRUITS O'SUNDAY」(日曜8:00-11:00)を担当。アロマセラピー、漢方、産後ケア、マクロビオティック、救急法などの資格を保持。古き良き時代への興味や思い入れが深く、40'S、50'Sの洋服やアクセサリーなどヴィンテージアイテム、50'S~70'Sのソウル、ソフトロック、ジャズなどのレコードを収集。その他、映画鑑賞やフルーツ演奏など多趣味。
尾上さとこSNS @satokooneo Instagram satokooneo
尾上さとこオフィシャルブログ <https://ameblo.jp/satokomura/>